



1. 学科課程

学科専門教育科目

履修コード	授業科目(クラス)	配当年次・開講期・単位数				担当者	備考	
		1年次以上履修可	2年次以上履修可	3年次以上履修可	4年次以上履修可			
		前通後	前通後	前通後	前通後			
		前通後	前通後	前通後	前通後			
応用コミュニケーション科目群	2072 時事社会研究			2		阪井	宏彦	
	2073 野外活動演習			2		角田	和宏	
	2074 ルポルタージュ論			2		阪井	宏洋	
	2075 映像表現論			2		中島	デニス・クイン	
	1871 英語メディア研究A			2	2	デニス・クイン	英語	
	1872 英語メディア研究B			2		岡井	徹宏	
	2081 教育コミュニケーション論			2		片阪	宏	
	2082 マスコミュニケーション論			2				
学	2101 総合講義(コ)			2		阪井	宏	
	2106 英会話I	2		2		ブルース・デビッドソン		
	2107 英会話II	2	2	2		ブルース・デビッドソン		
	2113 基礎演習(コA)	2	2	2		濱保	久	
	2113 (コB)	2	2	2		田辺	毅彦	
	2113 (コC)	2	2	2		田辺	毅彦	
	2113 (コD)	2	2	2		井藤	宏	
	2113 (コE)	2	2	2		井藤	宏	
	2113 (コF)	2	2	2		後川	悟徹	
	2113 (コG)	2	2	2		石片	川原	
科	2113 (コH)	2	2	2		川原	悟徹	
	2113 (コI)	2	2	2		柿田	久仁毅	
	2113 (コJ)	2	2	2		柿田	久仁毅	
	2126 社会活動実習			2		長谷川	典子	
	1616 異文化コミュニケーション概論I	2		2		長谷川	典子	
	1617 異文化コミュニケーション概論II	2		2		網野	真佐子	
	2127 英語特別授業	2		2		ブルース・デビッドソン		
	2128 アカデミック・ライティングI			2		ブルース・デビッドソン		
	2129 アカデミック・ライティングII			2		ブルース・デビッドソン		
	2141 フィールド実習I (A)	2	2	2		濱保	久	
共通	2142 (B)	2	2	2		豊田	悟徹	
	2143 (C)	2	2	2		豊田	久仁佳	
	2144 (D)	2	2	2		石片	久仁佳	
	2145 (E)	2	2	2		柿田	久仁佳	
	2146 フィールド実習II (A)			2		柿田	久仁佳	
	2147 (B)			2		柿田	久仁佳	
	2148 (C)			2		石片	久仁佳	
	2149 (D)			2		柿田	久仁佳	
	2150 (E)			2		柿田	久仁佳	
	2161 情報技術演習(A)		2			内川	宏悟征	
科目群	2162 (B)		2			内川	宏悟征	
	2163 (C)		2			岡原	悟征	
	2165 文章コミュニケーション(A)			2		岡原	宏悟征	
	2165 (B)			2		藤川	宏悟征	
	2171 プрезентーション演習				2	井多	弘政	
	海外短期研修(A)					井多	弘政	
	(B)					井多	弘政	
	(C)					塚田	早毅	
	海外短期研修(B)					塚田	彩	
	(D)					小野垣	典	
群	海外短期英語研修(A)			2		井井川	典	
	(B)			2		長谷川	典	
	(C)			2		江口	典	
	海外短期英語研修(B)			4		江口	典	
	(D)			4		江口	典	
	(C)			4		長谷川	均子	
	2185 インターンシップ・プロジェクト実習				2	江口	均子	
	1993 英語ワークショップC				2	長谷川	均子	
	1994 英語ワークショップD				2	江口	均子	
						江口	均子	

78ページの注2を参照のこと

“ ”

科 目 連 自 群 目 由	履 修 コ ード	授 業 科 目 (クラス)	配当年次・開講期・単位数				担 当 者	備 考
			1年次以上 履修可	2年次以上 履修可	3年次以上 履修可	4年次以上 履修可		
			前通後	前通後	前通後	前通後		
科 目 連 自 群 目 由	3142	自然地理学		4			下川和夫	
	6402	世界史 I (文社部)		4			木下憲治	
	3138	世界史 II		4			中村一浩	
	3127	国際政治学		4			中村研一	

注1) この科目は、履修登録時までに TOEIC500点以上の得点、TOEFL450点以上の得点、実用英語技能検定準2級以上のいずれかの取得が必要となる。「履修登録、Web」での履修登録はできないので、履修登録の際は TOEIC500点以上のスコア、TOEFL450点以上のスコア、実用英語技能検定準2級以上の合格証書いずれかを履修登録期間中に科目担当者に持参し、履修申込みをすること。また、履修登録できる者は30名を上限とする。履修希望者が31名を超えた場合は抽選となる。

注2) 綱かけの科目は、履修登録時までに TOEFL450点以上もしくは TOEIC600点以上の得点が必要となる。「履修登録、web」での履修登録はできないので、履修登録の際は TOEFL450点以上もしくは TOEIC600点以上のスコアを期限までに学科長に提出すること（提出期限は学科長に確認すること）。また、履修登録できる者は各科目5名を上限とする。履修希望者が6名を超えた場合は抽選となる。なお、TOEFLについては学内 TOEFL のスコアも可とする。



2. 卒業に必要な単位

(A) 大学共通科目¹

大学共通科目は、人間科学、人文科学と人間、自然・科学技術・人間、社会と人間、地域と文化、宗教と文化、演習科目、総合講義、キャリア教育関連科目、外国語からなる。

- (1) 人間科学
この分野から2単位以上を修得すること。
- (2) 人文科学と人間
この分野から2単位以上を修得すること。
- (3) 自然・科学技術・人間
この分野から2単位以上を修得すること。
- (4) 社会と人間
この分野から2単位以上を修得すること。
- (5) 地域と文化
この分野から2単位以上を修得すること。
- (6) 宗教と文化
キリスト教文化及び諸宗教文化の各分野から1科目2単位、計2科目4単位以上を修得すること。
- (7) 演習科目
修得すべき単位数に定めはないので、必要に応じて履修すること。
- (8) 総合講義
修得すべき単位数に定めはないので、必要に応じて履修すること。
- (9) キャリア教育関連科目
キャリア教育の分野から、職業と人生Ⅰ1科目2単位を修得すること。日本語科目分野から、日本語表現Ⅰ1科目2単位及び日本語表現Ⅱ1科目2単位を修得すること。情報科目分野から、情報入門1科目2単位、及び情報活用Ⅰ又は情報活用Ⅱのいずれか1科目2単位をあわせた、計2科目4単位を修得すること。なお、これらの科目は1年次に修得することを原則とする。また、情報活用ⅠとⅡの重複履修はできない。
ハードウェア基礎及びソフトウェア基礎の履修は、情報入門及び情報活用Ⅰ又は情報活用Ⅱの2科目4単位の修得を条件とする。
- (10) 外国語
 - 1 英語Ⅰ～Ⅳ、ドイツ語Ⅰ～Ⅳ、フランス語Ⅰ～Ⅳ、中国語Ⅰ～Ⅳ、韓国語Ⅰ～Ⅳのいずれか4科目8単位を修得すること。
 - 2 検定により認定される。詳細は「[外国語科目の単位認定²](#)」の頁を参照すること。
 - 3 自分が選択した言語8単位修得後、3年次以降に別の言語を履修することもできる。
- (11) (1)～(10)までの上記で修得すべき単位32単位以外に6単位以上を修得すること。

(B) 学科専門教育科目

下記の要領で履修し合計62単位以上を修得しなければならない。

- (1) 『心理コミュニケーション科目群』及び『応用コミュニケーション科目群』から、それぞれ必修2単位を修得すること。
- (2) 『心理コミュニケーション科目群』の心理統計法、心理学実験演習、心理学研究法の3科目8単位か、『応用コミュニケーション科目群』の応用統計法、観察訓練演習、インタビュー法の3科目8単位のいずれかを修得すること。
- (3) 『学科共通科目群』から必修22単位を修得すること。
- (4) 上記で修得していない『心理コミュニケーション科目群』『応用コミュニケーション科目群』『学科共通科目群』の科目の中からと『関連自由科目群』の科目の中から、28単位を修得すること。
- (5) 検定試験は、自学自習をして受験し合格した場合に単位を認定する。なお、卒業には8単位の認定を受けることが必要である。詳細は、「[検定認定³](#)について」を参照すること。

1. 大学共通科目

35～46ページを参照のこと。

2. 外国語科目の単位認定

197・198ページを参照のこと。

3. 検定認定

82・83ページを参照のこと。

1. 卒業研究

190～193ページを参照のこと。

- (6) 履修登録の条件が指定されている科目が「(C)積上指定科目」として示されているので、必ず確認すること。
- (7) 「3. スクリーニング」には、3年次以上の専門教育科目及び教職に関する科目的履修に必要な基礎条件が記載されているので、必ず確認すること。
- (8) 卒業研究¹の提出は、最終年次の前年次までに82単位以上（検定認定単位を除く）を修得していることを要件とする。ただし82単位未満でも卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱの履修登録はすることができる。詳しくは、「卒業研究」の頁を参照すること。
- (9) 海外短期研修(A)(B)(C)(D)及び海外短期英語研修(A)(B)(C)の履修登録は、参加申込みをもって代える。海外研修の参加とそれに伴う授業への出席により単位修得ができる。ただし、海外短期英語研修(A)及び海外短期研修(A)(B)クラスは、事前調査を行い履修者が少ない場合は開講しない。
- (10) 「3. スクリーニング」には、3年次以上の専門教育科目及び教職に関する科目的履修に必要な基礎条件が記載されているので、必ず確認すること。
- (11) 実習科目を履修する場合、実習費を当該科目的履修年度において納入しなければならない。科目名及び金額については、この履修ガイドの「学則（抜粋）」の最後に示してあるので確認すること。

(C) 積上指定科目

以下の科目においては、履修登録の条件が指定されているので注意すること。

心理学実験演習、心理学研究法：心理統計法の単位修得を条件とする。

観察訓練演習、インタビュー技法：応用統計法の単位修得を条件とする。

専門演習Ⅰ・Ⅱ：心理学実験演習と心理学研究法あるいは観察訓練演習とインタビュー技法の単位修得を条件とする。

専門演習Ⅲ・Ⅳ：原則として専門演習Ⅰ・Ⅱの単位修得を条件とする。

フィールド実習Ⅱ：フィールド実習Ⅰの単位修得を条件とする。

アカデミック・ライティングⅡ：原則としてアカデミック・ライティングⅠの単位修得を条件とする。

(D) その他

2. 文学部他学科専門教育科目、他学部他学科専門教育科目及び国際交流関係科目

47～48、55～58ページを参照のこと。

3. 副専攻科目

215～223ページを参照のこと。

- (1) 『大学共通科目』及び『心理コミュニケーション科目群』『応用コミュニケーション科目群』『学科共通科目群』『関連自由科目群』で修得すべき単位100単位以外に必要となる24単位（検定認定の8単位を除く）は、上記の修得すべき単位100単位として修得した授業科目以外の大学共通科目、学科専門教育科目、文学部他学科専門教育科目、他学部他学科専門教育科目及び国際交流関係科目²から算入できる。
- (2) 卒業単位計算上、修得した科目的単位数を分割して算入することができる。
- (3) 他学科専門教育科目は55ページに掲載されている科目のみ、履修登録することができる。
- (4) 副専攻科目³については、副専攻課程の履修を許可された場合には、修得した科目は全て、卒業単位の総単位に算入できる科目となる。
- (5) 教育心理学は、教職に関する科目としても開設されているが、卒業単位計算上、心理・応用コミュニケーション学科専門教育科目として参入し、履修登録時は教職に関する科目として取り扱い、履修登録単位数の上限には含まない。
- (6) この(A)(B)(D)のことについて、「(E)卒業単位表」に分かりやすく表で示してあるので参照のこと。



(E) 卒業単位表 (卒業に必要な最低単位数)

		単位数		
		必修	選択	
大学共通科目	人間科学		2単位	6単位
	人文科学と人間		2単位	
	自然・科学技術・人間		2単位	
	社会と人間		2単位	
	地域と文化		2単位	
	宗教と文化	キリスト教文化	2単位	
		諸宗教文化	2単位	
		演習		
	演習科目			
	総合講義			
専門科目	キャリア教育 関連科目	キャリア教育	2単位	24単位
		日本語科目	4単位	
		情報科目	2単位	
	外國語		2単位	
	計	8単位	24単位	
学科専門教育科目	心理コミュニケーション科目群	2単位	8単位	28単位
	応用コミュニケーション科目群	2単位		
	学科共通科目群	22単位		
	関連自由科目群			
	計	26単位	8単位	
文学部他学科専門教育科目				
他学部他学科専門教育科目				
国際交流関係科目				
副専攻科目				
検定認定		8単位		
計		42単位	32単位	24単位
合計			132単位	

大学共通計
38単位

専門教育計
検定認定除く
62単位

検定認定
8単位
24単位
132単位

(F) 検定認定について

各種検定試験に合格した者は、以下の要領に従い認定の手続を行うこと。

(1) 申請手続

- ・3年次または4年次に一括申請すること。
- ・申請受付時期（年5回予定）については別途掲示で連絡する。

なお、各年度の最終申請締切りは1月末日とし、2月の教授会に諮り単位の認定を行う。

- ・申請は、下記の書類を教育支援課に提出すること。

① 「心理・応用コミュニケーション学科検定認定申請書」（教育支援課資料配布トレイにある）

② 検定試験の「合格証書」か「合格証明書」、または「得点通知書」（原本）

(2) 認定の対象となる検定試験

群	検定	レベル	単位数	群	検定	レベル	単位数
英	実用英語技能検定試験 主催：財日本英語検定協会	準2級	2	中 国 語	中国語検定試験 主催：日本中国語検定協会	準4級	2
		2級	4			4級	4
		準1級	8			3級	8
		1級	12			2級	12
	TOEFL Test of English as a Foreign Language 国内主催：国際教育交換協議会 本部：ETS (Educational Testing Service)	19-40	2		実用中国語技能検定試験 主催：アジア国際交流奨学財団	5級	2
		41-51	4			準4級	4
		52-60	6			4級	8
		61-78	8			3級	12
		79-	12			5級	4
語	TOEIC Test of English for International Communication 国内主催：財国際ビジネスコミュニケーション協会 本部：ETS (Educational Testing Service)	340-399	2			主催：HSK 日本実施委員会	6級
		400-499	4			※【5級合格の認定】 合計6割以上、「聞き取り」「読解」「作文」の各項目も6割以上の点数が取れ正在こと。	
		500-599	6			※【6級合格の認定】 合計6割以上、「聞き取り」「読解」「作文」の各項目も5割以上の点数が取れ正在こと。	
		600-729	8			※【5級合格の認定】 合計6割以上、「聞き取り」「読解」「作文」の各項目も5割以上の点数が取れ正在こと。	
		730-(990)	12			※【6級合格の認定】 合計6割以上、「聞き取り」「読解」「作文」の各項目も5割以上の点数が取れ正在こと。	
		4級	4		ハングル能力検定試験 主催：ハングル能力検定協会	5級	2
		3級	6			4級	4
独	ドイツ語技能検定試験 主催：財ドイツ語学文学振興会	2級	8			3級	8
		1級	12			準2級	12
		初級	6	韓 国 語	韓国語能力試験 主催：財韓国教育財団	1級	4
オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験 主催：オーストリア連邦省	ドイツ語基礎試験	8	2級			8	
		8	3級～6級			12	
仏 語	実用フランス語技能検定試験 主催：財フランス語教育振興協会	5級	2		日本語文章能力検定試験 主催：日本語文章能力検定協会	4級	2
		4級	4			3級	4
		3級	8			準2級	6
		準2級	10			2級	8
		2級	12		※(4)参照	4級(準3級)	2
		79-				3級(準2級)	4
TOEFLの試験は3種類あり、以下の通り対応させる。	Paper-Based Computer-Based Internet-Based 350 - 436 63 - 122 19 - 40 437 - 469 123 - 149 41 - 51 470 - 499 150 - 172 52 - 60 500 - 549 173 - 212 61 - 78 550 - (677) 213 - (300) 79 -	日本語検定 主催：日本語検定委員会	2級(準1級)	日本語検定 主催：日本語検定委員会	2級(準1級)	2級	2
						1級	8
						1級	8
						特級	6
		国語力検定 主催：Z会 国語力研究所	2級	国語力検定 主催：Z会 国語力研究所	1級	4	2
						1級	4
						特級	6
						2級	6
日本語 能力 検定	語彙・読解力検定 主催：朝日新聞社・ベネッセ	日本漢字能力検定試験 主催：日本漢字能力検定協会	準2級	日本漢字能力検定試験 主催：日本漢字能力検定協会	準2級	2級	2
						2級	4
						準1級	6
						1級	8
						1級	8

- (3) 申請上の注意事項
- ・入学前に合格した検定又は得点は、原則として入学前5年間まで有効として申請することができる。
 - ・同一群内の検定は共通科目（外国語）との重複認定を行わない。
 - ・同一群内の単位認定の申請は1検定に限り受付ける。
 - ・認定単位数は異なった群についての合算ができる。
 - ・卒業に必要な8単位を超えた単位は卒業要件に算入できない。
 - ・学内TOEFL及び学内TOEICは認定の対象としない。
- (4) 「日本語文章能力検定試験」は、現在、休止中のため受験できないが、再開後は認定の対象となる。なお、すでに受験し合格した分については申請することができる。
- (5) 「国語力検定」は、2017年3月をもって終了したが、すでに受験し合格した分については申請することができる。

3. スクリーニング

（3年次以上の専門教育科目及び教職に関する科目の履修に必要な基礎条件）

2年次終了までに、下記の条件を満たしていないときは、3年次以上に配当された専門教育科目及び教職に関する科目の履修はできない。

次の(1), (2)を含み50単位以上を修得していること。

- (1) 英語Ⅰ・Ⅱ、フランス語Ⅰ・Ⅱ、ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱのいずれか2科目の4単位
(2) 基礎演習の2単位

4. 取得可能資格

認定心理士（日本心理学会認定）

認定心理士の資格認定については、オリエンテーション時に説明する。

社会調査士（社会調査協会認定）

236ページを参照のこと。

公認心理師

公認心理師の受験資格（国家試験）については、オリエンテーション時に説明する。